

## 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 会長挨拶

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（会期：平成21年6月27日～28日，会場：名古屋国際会議場）を開催するに際しまして，2つのテーマを掲げて特別プログラムを組んでみました。1つは，小児耳鼻咽喉科学というものが海外および日本でどのようになっているのかを見つめ直す「小児耳鼻咽喉科学というものの再確認」です。そうした観点から，招待講演はカナダのトロント小児病院耳鼻咽喉科の部長を一昨年まで長年にわたり務めてこられたWilliam S. Crysdale前教授に「A Short History of Canadian Pediatric Otolaryngology/Sialorrhea—My Clinical Passion」（座長：飯野ゆき子先生）というタイトルで，北米での小児耳鼻咽喉科学発展の歴史とその特徴についてお話を伺い，特別講演では，日本小児耳鼻咽喉科学会が研究会であった頃から長年にわたりその発展に貢献してこられた国立成育医療センター耳鼻咽喉科前部長の川城信子先生に「日本における小児耳鼻咽喉科学発展の歴史と今後の展望」（座長：市村恵一先生）というタイトルで，ご自身の経験を中心に，その歴史と展望についてお話しいただきます。もう1つのテーマは，小児耳鼻咽喉科学の知識や情報を小児科医に発信し，小児診療の耳鼻咽喉科に関する知識の普及と双方の協調を図る「耳鼻咽喉科医と小児科医の疎通」です。教育講演では，工藤典代教授（千葉県立保健医療大学）による「小児科医に知ってもらいたい中耳炎の知識」（座長：早川 浩先生）と，黒野祐一教授（鹿児島大学耳鼻咽喉科）による「小児期における扁桃の役割と扁桃摘出の適応」（座長：小河原 昇先生）というタイトルで，教育的な講演を2題準備しました。また，咳という1つの症状に対して耳鼻咽喉科，小児科の双方から考えるシンポジウムとして，宇理須厚雄教授（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科）のご司会にて「小児持続性咳嗽の原因と治療」というテーマで，阪本浩一先生（兵庫県立こども病院耳鼻咽喉科部長），望月博之准教授（群馬大学小児科），増田佐和子先生（国立三重病院耳鼻咽喉科部長），小松原 亮先生（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科）に科を超えて討論していただきます。ランチオンセミナーⅠでは，新島新一教授（順天堂大学練馬病院小児科）に「耳鼻咽喉科医に役立つ小児疾患の診かた—安全な抗ヒスタミン薬の使用法—」（座長：鈴木賢二先生）という興味深いお話を，ランチオンセミナーⅡでは，大久保公裕准教授（日本医大耳鼻咽喉科）から「小児アレルギー性鼻炎のトピックス」（座長：川内秀之先生）というタイトルでお話をしていただき，昼食時も会場で楽しく過ごしていただきたいと存じます。さて，一般演題ですが，89演題という予想を上回るご応募をいただきました。内容も耳鼻咽喉科のすべての領域に渡るもので，小児耳鼻咽喉科学の奥の深さ，裾の広がりを感じることができました。ご登録いただきました先生方には深く感謝申し上げます。会期が梅雨時で足元の悪い季節ではございますが，懇親会では名古屋の名物を取り揃えて皆様

方をお迎えするよう、教室員・同門会員一同、心を込めて準備してまいりましたので、多数のご参加をお待ちしております。

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会  
会長 内藤 健晴